

事業コード	R01-農-継-02		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	治山事業 (地すべり防止事業)		部局課室名	農林水産部 森林整備課
事業種別	補助事業 (治山事業)		班 名	治山・林道班 (tel) 018-860-1943
路線名等	荒瀬川		担当課長名	鈴木 光宏
箇所名	北秋田市阿仁萱草鉾山字荒瀬川		担当者名	副主幹 武石 直久
プランとの 関連	政策コード	03	政 策 名	県土の保全と防災力強化
	施策コード	00	施 策 名	災害に備えた強靱な県土づくり
	指標コード	00	施策目標(指標)名	県民の生命と財産を守る安全な地域づくり

1. 事業の概要

事業期間	H26 ~ R6 (11年)	総事業費	5.2 億円	国庫補助率	50.0								
事業規模	○ 集水井 2基、集排水ボーリング 5,002m、押さえ盛土 8,419m ³ 、流路工 450m (ほか)												
事業の立案 に至る背景	○平成23年12月に荒瀬川地すべり防止区域内で斜面崩壊が確認された。崩壊箇所は、地すべり防止区域内の末端部であったが、当初は地震等による一時的なものと判断し、平成24年度(補正)復旧治山事業により、拡大崩壊防止のため護岸工を実施した。その後、平成25年度の現地調査により地すべりであることが判明し、下流域の保全対象への被害を未然に防止するため、平成26年度より地すべり防止事業による対策工に着手した。												
事業目的	【主たる目的】 ○ 地すべりの誘因となる地下水を集水井工からのボーリング暗渠工により排除し、地すべり災害の防止を図る。 【保全対象】 ○ 人家28戸 ○市道300m ○田畑7ha ○橋梁3基 等												
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計	画	時	評	価	時	増	減	理	由	等
	事業費		400,000			522,286			122,286				
	経費	工事費	340,000			407,286			67,286				
		用補費											
	内訳	その他	60,000			115,000			55,000				
		財源	国庫補助	200,000			261,143			61,143			
	内訳	県債	180,000			235,028			55,028				
その他		一般財源	20,000			26,115			6,115				
事業内容	集水井 4基 ボーリング ⁵ 5,615m 押さえ盛土8,000m ³	集水井 2基 ボーリング ⁵ 5,002m 押さえ盛土8,419m ³	集水井 2基減 ボーリング ⁶ 613m減 押さえ盛土419m ³ 増	詳細調査及び施工単価の見直し、効果判定調査結果に基づく対策工事数量の増減。									
事業の進捗 状況	○ 平成30年度末投資事業 240百万円 (進捗率 46.0%) 集水井 1基、集排水ボーリング 1,752m、押さえ盛土 8,419m ³												
事業推進上 の課題	○ 特になし												
関連する計 画等	○ 「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」の基本政策「県土の保全と防災力強化」の中に「県民の生命と財産を守る安全な地域づくり」が位置づけられている。												
情勢の変化 及び長期継 続の理由	○ 当地区の向岱地域の住民及び北秋田市からは、早期・確実な実施を強く要望されており、情勢の特段の変化は見られない。 ○ 当地区は詳細調査及び施工単価の見直しに加え、効果判定調査を行いながらの対策工事であることから事業期間を要している。												
事業効果把 握の手法及 び効果	指 標 名	保安林の累計整備面積 (ha)											
	指 標 式	整備面積累計											
	指 標 の 種 類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無								
	目 標 値 a	62,736 ha		データ等の出典	森林整備課調べ								
	実 績 値 b	39,399 ha											
達成率 b/a	62.8 %		把握の時期	平成31年 3月									

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	○ 地すべり機構調査の結果、地すべりの規模も大きく、滑動が活発であることが判明しており、大規模な地すべりが発生した場合は、下流域の人家及び市道等に甚大な被害を及ぼす恐れがあることから、事業の必要性は認められる。	5 点
緊 急 性	○ これまでの対策工により、水位が低下しているが、現在も融雪期には地盤の滑動が発生しており、早急な地すべり対策により安定化を図る必要がある。	3 0 点
有 効 性	○ 当事業の実施により、地すべりブロックの活動量が大幅に減少しており、当事業の有効性が認められる。	6 点
効 率 性	○ 事業の費用便益費は、1. 23であり、効率性は高い。 ・総費用 450, 307千円 ・総便益 552, 291千円	2 0 点
熟 度	○ 地元住民及び北秋田市との合意形成は図られている。	2 1 点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III)	8 2 点
	多くの項目において評価点が高く、住民の安全・安心な暮らしを実現するうえでも優先度の高い事業箇所であり、継続して実施すべきと考える。	
総 合 評 価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止	
	評価結果から事業実施箇所としての優先度は高く、継続して事業を実施すべきである。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

計画どおりの完成を目指し事業を実施するとともに、引き続きコスト削減に留意する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
 適用基準名 地すべり防止事業

事業コード (農-継-02)
 箇所名 (北秋田市阿仁萱草鉱山宇荒瀬川)

1. 評価内容

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	事業の必要性	県民のニーズ	当該施策の優先課題としての支持率が非常に高い	5	5	
			当該施策の優先課題としての支持率が高い	3		
			当該施策の優先課題としての支持率があまり高くない	1		
			計	5		
緊急性	災害発生危険度	人命への影響	災害の発生により人命に危険がある	10	10	
			災害の発生により人命への影響はほとんど無い	1		
	地すべり兆候	全体的に変状が認められる	10	10		
		部分的に変状が認められる	5			
		具体的変状は認められない	1			
	林地・公共施設への影響	林地・公共施設への影響	林地・公共施設への影響が大	10	10	
			林地・公共施設への影響が懸念	5		
			林地・公共施設への影響が小	1		
計	30	30				
有効性	当初計画からの具体的成果	目標安全率の達成率	目標の100%以上	10	1	
			90%~100%未満	5		
			90%未満	1		
	上位計画への貢献度	第3期ふるさと秋田元気創造プラン	プランに関連する事業である	5	5	
			プランとは別の個別計画に関連する事業である	3		
計	15	6				
効率性	事業の投資効果	費用対効果	B/C=1.0以上	10	10	
			B/C=1.0未満	0		
	コストの縮減の検討	コスト縮減計画	具体的に検討または実施している	10	10	
			検討を予定している	5		
			検討していない	0		
計	20	20				
熟度	事業実施体制	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
			意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
			要件の同意を得ていない、または、調整中	1		
	これまでの進捗状況	前年度までの進捗化	計画より進捗している	10	1	
			概ね計画どおりである	5		
			計画より遅れている	1		
	今後の進捗見込み	課題等の有無	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる	5	5	
			将来的な課題はあるが、当面進捗に影響は無い	3		
			課題は解決の見込みが無く、事業の停滞が予想される	1		
	他官庁との協議調整	基本合意の有無	協議・調整済みで事業推進に影響は無い	5	5	
協議・調整中であるが事業推進に影響は無い			3			
協議・調整中で事業推進に影響する			0			
環境との調和への配慮状況	環境保全への配慮	十分に配慮されている	5	5		
		配慮について検討している	3			
		特に配慮はない	0			
		計	30			21
合 計				100	82	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上~80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		